

2025 年度 学位記授与式 式辞

283名の卒業生のみなさん、そして8名の大学院修了生のみなさん。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

卒業生は20期生、修了生は13期生として、今日この日をもって社会へと羽ばたいていきます。

また、これまで皆さんの成長を温かく見守り、支えてこられたご家族、関係者の皆さまに、心より敬意を表します。本日ここに、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、教職員各位とともに式典を挙行できますことは、大きな喜びであります。

皆さんが本学で過ごした2022年から2026年にかけての数年間は、世界にとっても、日本社会にとっても、大きな転換期でした。

2022年には、ロシアによるウクライナ侵攻によって、国際社会は再び「戦争」という現実と直面しました。中東においても深刻な衝突が続き、分断と対立は国境を越えて、今なお、広がっています。これらの出来事は、平和や安全が決して当たり前ではないことを、私たち一人ひとりに突きつけました。

同時に、物価の高騰やエネルギー問題は私たちの生活に影響を与え、気候変動による異常気象も頻発しています。環境問題は未来の課題ではなく、「今を生きる私たちの責任」として向き合うべき問題となっています。

さらに、生成 AI に象徴される技術革新は、学びや仕事の在り方を大きく変え、人間の役割そのものを問い直す時代を迎えています。

皆さんが大学進学を考えていた頃、社会は新型コロナウイルスの影響下にありました。部活動や大会が中止となり、観客のいないスタジアムが当たり前の風景となっていた時代です。「スポーツとは何か」「スポーツは本当に必要なのか」と、迷いや不安を抱いた人も少なくなかったはずです。

本学においても対面授業が難しい状況の中で、教職員一同、日々試行錯誤を重ねていました。

しかし、そのような環境の中でも、スポーツは私たちに挑戦する勇気や、前を向く力を与えてくれました。皆さんは、その可能性を信じ、スポーツが持つ力を本格的に究（きわ）めるべく、このスポーツ大学を選び、自ら新たな挑戦の扉を開いたのです。

技術や記録が注目されるようになった今だからこそ、その中心にいる「人間」の在り方が問われています。

本学の建学の精神は「桃李不言 下自成蹊（とうり ふげん かじせいけい）」です。人格や品格を備えた人のもとには、言葉で誇らずとも自然と人が集まり、やがてそこに道ができる。この教えはこれまで以上に重みを持って、これからの皆さんの大きな指針となるはずです。

振り返れば4年前、入学直後の「フレッシュマンキャンプ」がその原点でした。コロナ禍という制約の中で行われた、仲間づくり野外ゲームでは、初対面にもかかわらず、それぞれが知恵を出し合い、一人では解決できない課題

に前向きに挑戦しました。課題を乗り越えるたびに関係は深まり、「友達」から「信頼し合える仲間」へと変わっていく姿を見ることができました。

登山では、1200mを超える武奈ヶ岳の山頂制覇に向け、厳しい道のりの中、仲間同士で声を掛け合い、全員が登頂を果たしました。

一人では、辿り着けない場所も、仲間がいれば前に進める。

それは本学の行動指針である「忠恕（ちゅうじょ）の精神」、すなわち思いやりや助け合いを、体で学ぶ貴重な経験でした。

その後の専門的な学びの中では、指導実習や地域活動を通じて、多くの学びを得ました。ゼミ活動では、教員が一人一人に向き合う中、皆さんはそれに応えて大きく成長したことでしょう。

一方、部活動では、勝敗の先にある「スポーツの価値」を学びました。思うような結果が出ない苦しみの中でも、再び立ち上がる力を養いました。

この逆境を跳ね返す「しなやかな強さ」、すなわち「レジリエンス」こそが、皆さんが本学で得た宝物です。

4年次に取り組んだ「卒業研究」は、その集大成であり、知的成長の証です。自ら問いを立て、考え、深めるという地道な過程は、社会で求められる「本質を見抜く力」を確かに鍛え上げたのです。

この4年間で皆さんが身につけたものは、単なる知識ではなく、未知に挑戦し、学び続けることのできる「人間力」です。

本学は開学して23年になります。

私自身、野外教育を専門とする教員として、学生たちとともに「命」と向き合う活動を続けてきました。自然という、時に厳しく、時に優しさに満ち溢れた、深く広い存在を相手にする中で、常に指針としてきたのは、自然と調和しながら生きてきた ネイティブアメリカンの精神です。彼らに伝わる言葉に、次のようなものがあります。

知識ではなく、知恵を求めよ。知識は過去のものであり、知恵は未来を照らすものである

生成AIが膨大な「知識」を瞬時に示す現代だからこそ、自らの身体で感じ、悩み、考え抜き、最適解を導き出した皆さんの「知恵」は、機械には代替できない絶対的な価値を持ちます。

皆さんが本学で培ったものは、単なる知識の蓄積ではありません。未来を切り拓く「確かな力」としての知恵なのです。

これから皆さんが旅立つ社会は、不確実性に満ちています。しかし、どうか自信を持ってください。本学で培った実践知と論理的思考、そして相手を思いやる「忠恕」の心があれば、どんな困難も乗り越えていけるはずです。

言葉で自分を飾るのではなく、自らの行動で示し、あたたかな「道」を築く存在となってください。

時には、はげしい嵐が訪れることもあるでしょう。そんな時には次の言葉を思い出してください。

行き先を見失った時には、出発点に戻ればいい

人は、原点に戻ることで、もう一度前に進む力を取り戻します。もし自分の進むべき方向を見失いそうになったら、いつでもこのキャンパスを思い出してください。ここは、皆さんの「出発点」となる場所です。

そして、帰ってくるのは迷った時だけである必要はありません。大きな目標を達成した時、自分の成長を実感した時、そんな瞬間にも、ぜひその報告をしに帰ってきてください。嬉しい時も、苦しい時も、私たちはいつでも、この場所で、皆さんの輝く笑顔に再び出会える日を、心から待っています。

結びに、皆さん一人ひとりが、本学での学びと経験を胸に、スポーツの価値を社会に広げ、未来を支える力として、人と人をつなぎ、確かな「道」を築く存在として、活躍されることを心より祈念し、私の式辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

2026年3月19日 びわこ成蹊スポーツ大学 学長 黒澤 毅